

平成（22）年度 （古里）中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

- | | |
|---------|--|
| 1 青雲の志 | 将来の夢や希望を抱き、その実現に向け、徳を積もうとする志をもつ生徒の育成 |
| 2 友垣の和 | 友達の困っている様子に気づき、正義感・連帯感を大切にし、友達のために尽くそうとする生徒の育成 |
| 3 冴えた知性 | 学んだ知識や知恵等を場に応じ、適切に働かせ、創造していく力をもつ生徒の育成 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学ぶことを最優先にしている学校を作る

- ◎ 授業のあり方を工夫している、生徒の「学び」の状況を適切に把握している
- ◎ 一体感の感じられる学校、生徒の作品がたくさん飾られ、必要な情報が提供されている学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

- (1) 教職員が、全体の奉仕者としての使命感を自覚し、常に自己の向上に努め、意欲的に活動する。
- (2) 校長・副校長が教職員を理解し、持ち味を生かすとともに、学年主任、学級担任、教科担任が一人ひとりの生徒を理解し、「生徒の躍動する学校」の創造に勤める。
- (3) 教職員が組織の一員としての自覚を持ち、互いに磨き合う人間関係を培い、全校体制で教育活動を推進する「一体感のある学校」の創造に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

- (学校運営) 運動会などの学校行事を大切にしたい学校・学年・学級の一体感のある学校づくりと、授業において学び合いを基本姿勢として、生徒一人ひとりの能力向上を図る。
- (児童生徒指導) 基本的な生活行動様式に関する指導を徹底する。
- (健康・体力) 生徒一人ひとりが健康や体力に関心を持ち、積極的に健康・体力の向上に取り組むようにさせる。
- (学習指導) 学びの共同体づくりを目指したチーム学習を推進する。生徒の学び合いを実現するための発問・課題作りに取り組む。

5 自己評価（Aは共通評価指標，Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】全体アンケートの①「自分は今の学校が好きである」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	学校行事で、生徒の自発的・自治的活動を基盤として一体感の感じられる学校づくりを進める。	B	<p>【達成状況】</p> <p>学校行事に取り組む姿勢は、意欲的であり、生徒の活発な活動が見られた。A1についての生徒の肯定的回答は 90.8%であり、A2についても 89.7%と目標値を超えている。A3の「きまりやマナー」についても 88.9%である。</p> <p>また、教育課程の実施に関しても、保護者の肯定的回答が 94.5%であり、目標値を超えている。</p> <p>ただ、「授業は分かりやすく、丁寧に教えてくれる」という問いに関しては、生徒の肯定的回答は 80.5%で目標値を超えているが、保護者の肯定的回答が 53.2%と昨年よりも低い数値（この他に学校に行かないので分からないが 17.9%入っている）がでている。</p> <p>授業も「学び合い」を中心にして生徒、並びに教師も熱心に取り組むことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>引き続き、学校行事や授業を中心に生徒の</p>
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】全体アンケートの②「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	「学び合い」のチーム学習を推進するために、小グループでの活動のあり方やそれにふさわしい課題づくりを研究する。	B	
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】全体アンケートの④「自分は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	基本的な行動様式の徹底を職員の共通理解のもとに推進する。	B	

	<p>A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑤「先生方の授業はわかりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>「学び合い」のチーム学習を推進するために、小グループでの活動のあり方やそれにふさわしい課題づくりを研究する。</p>	<p>A</p> <p>自発的・自治的な活動を支援していく。「学び合い」を中心にすえた授業づくりも6年目を迎え、教師中心から生徒中心の授業へ転換も進んでいる。</p> <p>しかし、「分かりやすい授業」「生徒一人ひとりに配慮した授業」に関しては目標数値を少し上まわっただけなので、まだ改善の余地はある。年間5～6回の授業研究会だけでなく、日常的に指導技術や教材研究、資料作りについて話し合い、情報の共有を図れるような体制作りを行いたい。</p>
	<p>A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑥「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>授業時数を確保するとともに、特色ある教育課程を工夫し、実施する。</p>	<p>B</p> <p>また、習熟の程度にかなりの違いがある生徒に対して、個への配慮は指導技術の熟練を要するものである。この点に関してベテラン教師が中堅・若手教師を育てていくことにさらに力を入れていく必要がある。</p>
<p>学校運営の状況</p>	<p>A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑦「学校から情報を積極的に発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>オープンスクールを含めて、学校公開日を年間に10日以上設定する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <p>「学校からの情報提供」については、保護者の肯定的回答 90.8%と目標値を超えているが、A7の「地域・保護者との連携」は74.2%で、H21年度より上がっているが目標値を下回っている。</p> <p>また、「学習にふさわしい環境」については、保護者の肯定的回答がH21年度に比べ4.4%上昇し目標値を上回った。</p>
	<p>A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑧「学校は、家庭・地域・企業と連携して教育活動の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>「魅力ある学校づくり地域協議会」を活用して、地域との連携を図る。</p>	<p>A</p> <p>A9の「学校全体での指導力向上」に関しては、PR不足のためか保護者の肯定的回答が59.8%（「わからない」も21%とかなり高い）と目標値からかなり下回った。</p>
	<p>A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑩「学校は清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>美化コンクールやサイレントデーなどを設けることにより、清掃に対して生徒を意識的に取り組ませる。</p>	<p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>「地域協議会」をより機能させ、学校・地域双方の情報交換をもとに人材発掘に努める。地域教育力の活用をさらに充実させるよう工夫する。</p> <p>情報提供には、紙媒体の学校だより、学年だより、学級だより、地域協議会だより等を通じてH22年度以上に力を入れて生きたい。</p> <p>また、ホームページを利用した広報活動も今後ますます重要と思われるので、その充実に努めていく。</p>
	<p>A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑪「学校は教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>「学びの共同体づくり」を合言葉にして、ワークショップ形式の研修などを積極的に取り入れる。</p>	<p>A</p> <p>環境整備については、清掃活動に力を入れて校内美化に努めたい。生徒会活動との連携も図る。</p> <p>「本時のねらい」を明確に示すとともに一人ひとりのつまずきにも細やかな配慮をするなどの指導力の向上に努める。</p>

	<p>B1 学校全体で学校行事に取り組み、一体感の感じられる学校になっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑥「自分は学校での生活や様々な活動が充実している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>運動会・合唱コンクールなどを中心として多くの生徒が達成感の感じられる学校行事を作る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>生徒の肯定的回答は 87.6%で多くの生徒が達成感を感じている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>「生徒とともに」をスローガンに掲げさらに充実した学校行事にしていく。</p>
教育活動の状況	<p>A10 自ら進んであいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。</p> <p>【全】</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑩「自分はあいさつをしている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>生徒会活動の中で、「あいさつ運動」を展開するなどして生徒の意識の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>「あいさつ」「ルールを守って生活する」のどちらも生徒アンケートでは 91.9%、84.0%とかなり高い肯定的回答になっているが、保護者の回答は 75.2%、65.4%と低い数値になっている。生徒会を中心に「あいさつ運動」等を実施したが保護者に知られていないのが現状である。</p>
	<p>B2 校内のルールを守って(A3)互いに気持ちよく生活することができる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの④「自分は授業と生活のきまりやルールを守って生活している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>年2回の「明るい明日へのアンケート」によって、いじめなどの実態調査を行い、適切に対処する。</p>	<p>【次年度の方針】</p> <p>H23 年度も、生徒会活動などを通じて「あいさつ」「決まりを守って生活する」など、基本的な行動様式の徹底に努める。</p> <p>また、不定期の交通指導も充実させ、交通ルールや自転車通学の遵守意識を高める。さらに、地域・保護者への啓発に努め、学校・家庭・地域が一体となって生徒の安全や規範意識の定着につながる取り組みをしていく。</p>
	<p>A11 毎日朝ごはんを食べ、栄養のバランスを考えた食生活をしている。</p> <p>【全】</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑫「自分は好き嫌いなく食べている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>毎月「給食だより」「保健だより」を定期的に発行して、食や健康に関する意識の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>「給食を好き嫌いなく食べている」の生徒アンケートでの肯定的回答は 74.6%であり、「休み時間や放課後の運動」についても 59.5%と目標に届いていない。しかし、保護者の肯定的回答は、それぞれ 84.7%、93.2%と比較的高い数値を示している。</p> <p>給食だより、保健だよりは内容を工夫しながら定期的な発行ができた。</p>
	<p>B3 生徒は昼休みや放課後(A11)に進んで運動している。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑬「自分は休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>昼休みや放課後の運動を奨励する。</p> <p>新体力テストの結果をもとに、生徒一人ひとりが課題をもって体育の授業に取り組むことができるようにする。</p>	<p>【次年度の方針】</p> <p>給食については、各種たよりで食や健康の意識を高めるとともに、学級活動や家庭科に時間などにおいて食育をさらに推進していく。</p> <p>また、昼休みや放課後の運動についてもさらなる生徒への呼びかけなどにより目標値に近づくように努めたい。</p>
<p>A12 授業に意欲的に参加し、基本的な学習態度・技能が身に付いている。【全】</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑮「自分は先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>帰りの学活のなかで、その日の学習内容の振り返りを行う。</p> <p>家庭学習の習慣化を図るために、家庭学習の記録を翌日にチェックする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>「先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」の生徒の肯定的回答 83.5%、「互いに学びあうことができている」も 81.3%の肯定的回答であり、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>スタンダードダイアリーを活用する等マン</p>	

	<p>B4 チーム学習の中で、互いに学び合うことができる。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの「自分は、チーム学習に積極的に参加している⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>座席配置を工夫して、3～4名程度の小グループでの活動を日常的に授業の中で行う。</p>	<p>B</p> <p>ネリ化した家庭学習での課題の出し方の工夫をしていく。</p> <p>また、基礎・基本を大切に「学びあいの授業」づくりにさらに努め、その中でコミュニケーション能力の向上も工夫していきたい。</p>
本校の特色・課題等	<p>B5 コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑩「自分は、友達との話し合いを積極的に行っている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>各教科・領域等において、話し合い活動、発表などの機会を意図的に増やして、コミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】</p> <p>「自分は、友達との話し合いを積極的に行っている」に対する生徒の肯定的回答は 90.2%で目標を達成しているが、「自分は社会のできごとや国際的な問題に関心を持って生活している」の肯定的回答は 66.3%と目標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>コミュニケーション能力の目標値は達成してはいるが、人との関わり（言葉を通して）に関して今後もいろいろ教えていかねばならない。</p> <p>また、国際問題への関心を高めていくように総合的な学習の時間を活用したり、道徳・学級活動の中で計画的に取り組んだりしていく。</p>
	<p>B6 今日、国際的な課題に関心を持ち、視野を広げること</p> <p>【数値指標】全体アンケートの⑪「自分は、社会のできごとや国際的な問題に関心を持って生活している⇒生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>「総合的な学習の時間」や各教科・道徳の時間の中で今日的・国際的な課題を学習テーマとして取り上げていく。</p>	

〔総合的な評価〕

学校評価の施行から3年目を迎え、P-D-C-Aサイクルの学校評価システムが確実に定着しており、学校の改善が確実に図られてきている。全体アンケートでの肯定的回答を比較しても教育全体の状況や学校運営の状況に関する項目においては、ほとんどが右肩上がりの傾向を示しており、取り組みの成果が表れてきている。しかし、教育活動の状況（生活、健康・体力、学習）の評価指標によっては、数値目標を大きく下回る項目も見られる。「給食の好き嫌い」とか「休み時間や放課後に運動している」などの肯定的回答が低く、改善を図らなければならない項目もある。

今後、学校での改善指導はもちろんのことであるが、学校だけでは限界がある。平成22年度は、PTA活動がない分、学校へ積極的に足を向けてもらえるよういろいろな活動を計画した。かなりの保護者がくるようになってきたが、活動そのもののマンネリ化につながらないよう努力し、その関係を深め、それぞれの立場で問題意識を共有して子どもたちの育成に取り組んでいくことが不可欠である。PTA活動がない分、学校支援地域本部（地域協議会）との連携をさらに強化し、問題解決に向けて努力していきたい。

6 学校関係者評価

学校評価システムが確実に定着し、効果をあげているのが実感できます。しかし、「あいさつをする」「朝ごはんをしっかり食べる」など本来は家庭でのしつけが基本です。それが学校の教育課程の中に入れなければならないなど最近の世情とはいえ、残念です。それに、「PTA活動がない」親を学校に誘い出すには、いろいろと案を考えていく必要があります。次年度もこの地域協議会の活動を生かし、学校へ足を運ぶ「きっかけ作り」をしていき、生徒、保護者、地域の一体感ある学校園作りをしていきたいと考えます。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

学校関係者評価では、皆様から、学校への励ましやご指摘など貴重なご意見を多数いただきました。それらを真摯に受け止め、現状に満足することなく、改善を図りながらよりよい学校づくりに努めてまいります。さらに、生徒の健全育成を図るためには、学校での改善指導はもちろんですが、学校だけでは限界がある項目や内容もあり、家庭や地域との連携を図り、それぞれの立場で問題意識を共有して子どもたちの育成に取り組んでいくことも必要です。今後、地域協議会を中心として地域との連携をさらに強化し、課題解決に向けて努力してまいります。特に、生徒の学習・生活面の課題に対し、生徒自身が主体的に考えて自主的に取り組めるような活動を工夫し、改善に努めてまいります。平成24年度からの小中一貫教育の観点からも、子育て・教育に関する情報の共有も図っていこうと考えています。